アメリカでのインターンシップに関する報告と埼玉県の PR

アメリカ、ワシントン州

S・K

奨学金をいただき、アメリカ、ワシントン州の農家でインターンシップを行わせていただきました。本レポートでは、現地の様子と埼玉県に関する PR を記述させていただきます。

1. 現地の様子

アメリカのワシントン州に位置する、西海岸の北部の離島に滞在していました。滞在していたところは、本島からは離れており、シアトルから、フェリーで 1、2 時間ほどの場所に位置しています。

人口は 2、3000 人ほど、電気自転車で島を一周できてしまうくらいの小さなところでした。しかしながら、自然が豊かなところで、農林業や漁業が盛んであり、ビーチなどもありました。日本でいう田舎のようなところであるため、コミュニティの活動が盛んであり、大自然に囲まれていることもあり、環境問題に関心を持つ人や、地域や旬を生かして食を大切にする人が多い印象でした。農家ではなくても、ガーデニングをしている人や、家で鶏を飼っている人がほとんどで、自給自足に近い生活をしていることが見受けられました。環境への配慮から、移動手段として、電気自動車を利用している人も多く、サイクリングをする人も多くいます。島にスーパーは二つしかなく、どんな種類の店の開店時間も短めです。しかしながら、食材に関しては、ファーマーズマーケットという直売所に行けば、地域の農家さんから、新鮮な食べ物を直接購入することが簡単にできます。

天候に関しては、日本よりも気温は低かったです。5 月から 8 月の上旬にかけて滞在をしましたが、朝晩は冷え込みので、冬のコートを着ていた程です。人口については、英語話者が大半を占める一方、南米からの移民も多く、スペイン語も時々話されていました。そして、移民者が、暮らしやすいような活動もなされていました。例えば、就職や移民への差別などへの対策です。日本でいう、リゾート地のような性質もあり、定住している人がいる一方、別荘などもあるので、夏には約 1000 人の人口が増えます。

そして、先住民族の文化も根強く残っている場所でした。先住民族の言語や食文化が廃れないような努力もされていました。その一方で、離島であり、物を輸入するのにコストがかかることから、生活費は非常に高いことで知られていました。食品も高価ですし、住宅の数も限られており、かつ入居には高額の金額は必要です。そのため、Community Land Trust という、アメリカ発祥の住む場所を安価で提供することを目的とした団体の活動が盛んであり、Land Trust が文化の一つでもあったように思われます。

2. 埼玉県の PR

自分の出身である桶川に関する、ベニバナやうどんなどを PR しました。現地の土地柄で、農業や植物に関する人が多かったため、ベニバナとともに桶川が発展したこと、ベニバナを用いた染め物なども合わせて紹介しました。加えて、狭山茶や武蔵野うどんなどをはじめとした、観光地の有名な食べ物や、秩父や川越とかなどの観光のおすすめをしました。さらに、私は農業に関する勉強をしているため、武蔵野の落ち葉堆肥農法にも触れました。歴史的に、なぜ武蔵野の地域で落ち葉堆肥が発展したか、なぜ有意義なのか、またどのようにこの伝統を継承するための取り組みがなされているかを PR しました。

奨学金のおかげで留学をすることができ、埼玉県の PR をすることができたことを嬉しく思います。今後留学をされる皆様のことを応援しております。ありがとうございました。